

聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第4章 ダビデと他の詩篇記者たちの祈り②



大いなる祝福の時の祈り

ダビデ王にダビデ契約と呼ばれるものを伝えたのは預言者のナタンでした(Ⅱサムエル7章を参照)。それは実に、豊かな約束と確証を伴うものでした。しかし、そのように圧倒的な啓示に際しても、ダビデは手放して喜ぶことはせず、むしろ出て行って祈ったのです。

ダビデ王は行って主の前に座し、そして言った。「神、主よ。私がいったい何者であり、私の家が何であるからというので、あなたはここまで私を導いてくださったのですか。神、主よ。…あなたは、このしもべの家にも、はるか先のことまで教えてくださいました。… このダビデは、このうえ、あなたに何をつけ加えて申し上げることができましょう。あなたはこのしもべをよくご存じです。あなたは、ご自分の約束のために、あなたのみこころのままに、この大いなることのすべてを行い、このしもべにそれを知らせてくださいました。それゆえ、神、主よ。あなたは大いなる方です。私たちの耳に入るすべてについて、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はありません。



どうか、神、主よ。あなたが、このしもべとその家について約束されたことを、とこしえまでも守り、あなたの約束どおりに行ってください。あなたの御名がとこしえまでもあがめられ、「万軍の主はイスラエルの神」と言われますように。あなたのしもべダビデの家が御前に堅く立つことができますように。イスラエルの神、万軍の主よ。あなたは、このしもべの耳にはっきり、「わたしが、あなたのために家を建てる」と言われました。それゆえ、このしもべは、この祈りをあなたに祈る勇気を得たのです。今、神、主よ。あなたこそ神であられます。

あなたのおことばはまことです。あなたは、このしもべに、この良いことを約束してくださいました。今、どうぞあなたのしもべの家を祝福して、とこしえに御前に続くようにしてください。神、主よ。あなたが、約束されました。あなたの祝福によって、あなたのしもべの家はとこしえに祝福されるのです。(Ⅱサムエル記 7:18-22、お 25-29. またⅠ歴代誌 17:16 も参照)

祈りにおいては、時には体の姿勢も重要となることがあります、主が一番に関心を抱いておられるのは心と魂における姿勢です。この例の場合、ダビデは「行って主の前に座し」(7:18)とあります(この時代、主の御前に座ることができるのは王の特権でした。普通の人々は立つかひざまずくかしなければなりませんでした)。

直立する者ではなく
ひざまずく者でもなく
心ひれ伏す者たちに
主は恵み深くお臨みに
まこと心の姿勢こそ
主を喜ばせ悲しませるもの
神の御目に正しくなさに
正せる者ぞ誰も無き

ダビデのこの祈りからは多くの教訓を得ることができますが、特に注目すべきは次のような点です。

1. 祈る人の心の態度は、深い謙遜の態度でなければならない(18-19 節)。
2. 祈る人は、神がご自分のしもべたちのことを完全に知っておられるということを認識し、神にそのように近づかなければならない(20 節)。
3. 神は、ご自分のお心に従って、しもべたちにご計画とご意志とを知らせてくださる。言い替えるならば、その啓示の程度と範囲とは、神ご自身がお定めになることである(21 節)。
4. 神の偉大さに思いを巡らせ、それを宣言することは、他の種々のことの中でも、信仰にとって最も重要な刺激である。これは、祈る人に与えられる特権である。
5. 神によって贖われ、永遠に神のものとされている人々(神の家族)を認識し、これを大切に思うことは、何にもまして重要なことである(23-24 節)。
6. 私たちの祈りは、神の家族(the household of God)と、神のしもべたちの家族(household of God's servants)の両方を含むものでなければならない(25-29 節)。

失敗を犯した時の祈り

愚かさと軽率さは、人間が誰しも共通して持つ性質です。例外はいないでしょうし、いてもきわめて限られていることでしょう。敬虔で偉大なダビデ王も例外ではありませんでした。神の「お心にかなった」ダビデの心は、彼にとって最も優れた信仰上の資産でした。失敗や誤った判断、罪や愚かさなど、その生涯にいかなるものが起きてきても、彼の心はコンパスのように、常に脱出の道を指し示していました。なぜなら、彼は心の深いところで、本当に神のみこころを行いたいと願っていたからです。ですから彼は、常に罪の告白をし、悔い改めの心を示し、赦しを受け取っていました。

しかしながら、彼の心が単純な回避装置に過ぎず、彼がそれによって愚かさの結果を避けることができていたというわけではありません。バテ・シェバとの不適切な関係後の混乱について見ると、このことがわかります。彼らの不倫関係から生まれた子どもは重病にかかり、ダビデは祈ります。彼は「その子のために神に願い求め、断食をして、引きこもり、一晩中、地に伏していた」(IIサムエル 12:16)と記されています。



徹底的に悲惨な失敗に直面しても、敬虔な人々は祈ります。自らの軍勢が戦場にある一方で、ダビデは文字通り「シオンでくつろいで」(IIサムエル 11:1 を参照)いました。既に広大な土地を征服していたことで、神との生きた関係を、つかの間、忘れてしまっていたのかもしれません。

あるいは、人々はたとえ祈ってはいても、自分の内にある情欲については依然として脆く、予期せぬ誘惑の瞬間に対して常に警戒していなければならないということが、ここでの教訓となっています。

ダビデは祈る前に、既に魂の壁を修復していました。自らの恐るべき行いを告白し(12:13)、神の憐れみと恵みを確かにいただいていた。そのような悔恨の念がなければ、彼の祈りはそれ自体が、ずうずうしい罪となっていたことでしょう。しかし、ダビデの告白にもかかわらず、そして、断食ととりなしの日々にもかかわらず、神がその願いをお聞きになることは決してありませんでした。神のみこころは、その子は死ななければならないというものだったのです(12:14)。祈りは、生じた損傷を消し去ることはできませんでした。完全な赦しは与えられたものの、そこには何らかの結果が伴わなければならなかったのです。

別の場面では、ダビデが愚かにも(おそらくは高慢のゆえに)イスラエルとユダの人々を数え(IIサムエル 24:1-15 を参照)、神の怒りを身の上に招いています。彼は即座にその罪を告白しました。「ダビデは、民を打っている御使いを見たとき、主に言った、『罪を犯したのは、この私です。私が悪いことをしたのです。この羊の群れがいったい何をしたというのでしょうか。どうか、あなたの御手を、私と私の一家に下してください』」(IIサムエル 24:17)。

人が罪を犯すとき、その人のみが影響を受けるということはほとんどありません。その罪が人目につくものであればあるほど、また、その人の責任が大きければ大きいほど、その罪のインパクトは大きく、結果は広範囲にまで及ぶものなのです。自らの罪を認めることは苦しいことですが、その影響が他の人々に及んでいるのを目の当たりにすることに比べれば、大したことではありません。ダビデを祈りへと駆り立て、後に大きな安心を得ることとなったのは、まさにそのような苦しみでした。歴代誌の記者(おそらくはエズラ)は、そのようにして回復された交わりを次のように記録しています。

こうしてダビデは、そこに主のために祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえとをささげて、主に呼ばわった。すると、主は全焼のいけにえの祭壇の上に天から火を下して、彼に答えられた。(I歴代誌 21:26)

いけにえを焼き尽くす神の火は、ダビデにとって、神が赦して受け入れてくださったことを確信させてくれる証拠となりました。神が、いけにえを捧げる者を受け入れ、確証をお与えになっていることを、文字通りの火によって示すことはもはやありませんが、主の祭壇に自らを捧げる人々に確証をお与えになる聖なる火は、いまだに存在するのです(使徒 2:1-4)。

? 質問

- 1 ダビデは豊かな約束と確証を伴う「ダビデ契約」を聞いたとき、どのような行動をとりましたか？
それはダビデのどのような心を表していますか？

- 2 ダビデの祈り（サムエル記第二 7 章 18～22 節・25～29 節）から多くの教訓を得ることができます。
 - ① あなたが祈る前から、神があなたの状態を完全に知っておられることをどう思いますか？

 - ② あなたは祈りの中で、神の計画と意志を教えてくださいましたか？

 - ③ あなたは祈りの中で神の偉大さを告白していますか？

- 3 失敗したり誤った判断をしたり罪を犯したりしたとき、ダビデは何をしましたか？その理由は何ですか？
あなたは、罪を犯すと祈れなくなると誤解していませんか？

- 4 ダビデが愚かにもイスラエルとユダの人々を数えたために、人々に神の怒りを招くことになりました。
あなたにも、自分の罪が他の人にまで影響を与えてしまったという経験がありますか？
そのようなときどうしたらよいと思いますか？

- 5 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？
どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

神さま。あなたがどれほど大きな方であるかを教えてください。あなたが信頼に値する方だと教えてください。あなたのご計画に従い、愛する一人ひとりのためにとりなすことができますように。罪を犯したとき、私が悔い改めて罪を告白するなら、あなたはキリストのゆえに私を赦して下さる憐れみ深い方であると信じます。そう信じて、ただちに悔い改めて祈ることができますように。